

平和公園(西地区)の基本方針(案)及び
ゾーニング(案)とゾーン別整備方針(案)

平和公園(西地区)の基本方針(案)

平和公園の概要

- 長崎国際文化都市建設計画(昭和24年施行)に基づき、被爆の実相を訴えるとともに、世界平和と文化交流のための記念施設として昭和26年に整備に着手(昭和30年開設)
- 以後、施設の拡充、更新等を行い、長崎市民のみならず、国内外の多くの人々に親しまれてきたシンボリックな総合公園

長崎南北幹線道路の事業化(検討の前提条件)

- 長崎南北幹線道路((都)長崎時津縦貫線)が高架橋で平和公園西地区の上空を通過
・再配置の検討対象施設:市民総合プール(屋内・屋外)、陸上競技場、庭球場、ソフトボール場、弓道場

平和公園(西地区)を取り巻く状況

①人口減少・少子高齢化の進行

- 人口減少・少子高齢化が進行する中、限られた財源内で、高齢者の健康増進や子ども遊び場の充実など、定住促進に寄与する公園整備が求められている。

②「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」の都市づくり

- 「公園」の分野からも、都市づくりの方針に沿った取組みが求められている。
- 民間による「長崎スタジアムシティプロジェクト」が進行している開業した。

③スポーツニーズの多様化

- ライフスタイルの多様化などを背景に、競技スポーツや、市民スポーツ(レクリエーション)など、多様なニーズに対応した環境の整備が求められている。

④高規格道路の整備

- 長崎市と佐世保市を約1時間で結ぶ「西彼杵道路」と「長崎南北幹線道路」の未整備区間の事業化に向けた検討が進められており、両路線の整備後は、県北と県南に点在する観光資源の連携による観光振興に大きく貢献することが期待されている。

⑤自然災害の頻発化・激甚化

- 自然災害が頻発化・激甚化する中、公園には防災拠点や避難場所としての役割が求められている。

⑥環境問題の顕在化・深刻化

- 環境問題が顕在化・深刻化する中、二酸化炭素削減に向け、公園分野においても積極的な取組みが求められている。

⑦ICT(高度通信技術)の発達

- パークマネジメント(計画、整備、管理、運営等)への展開など、公園分野においてもICTの活用が求められている。

⑧公園施策の動向

- 民間活力による新たな都市公園の整備手法(Park-PFI)が創設され、全国的に官民連携手法による公園整備が進んでいる。
- 新型コロナ危機を契機に、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識されている。

⑨SDGs(持続的な開発目標)への対応

- 誰もが容易に、緑地や公共スペースへアクセスできることが求められている。

平和公園(西地区)の特性

①立地特性

- 南北の都市軸上に位置し、市街地中心部に立地する唯一の総合公園であり、貴重なオープンスペースである。
- 周辺では住居系や商業系の土地利用がなされ、学校も多く立地している。
- 路線バスや路面電車が高頻度で運行しており公共交通の利便性が高い。

②敷地特性

- 東側は路面電車やJR、西側は二級河川浦上川に面する細長い敷地形状である。
- 中央付近に市道松山町線が位置し、西地区を南北に分断している。
- 国道202号からが主な歩行者動線となるが、その他にも出入口が点在している。

③利用特性・施設特性

- 競技場としては、庭球場、市民総合プール、県営野球場の利用者が多く、ソフトボール場の利用者が最も少ない。
- 各施設で、県・市レベルの大会やイベントが開催されている。
- ソフトボール場以外の施設は、各世代に万遍なく利用されている。
- 陸上競技場は多目的に利用されている(中学・高校生等の陸上競技の練習を含む)
- 市民総合プール(屋外)は6月~9月の利用に限定されている。
- 令和2年度末現在、ソフトボール場(照明設備等)は35年、市民プールは25年、庭球場(屋根)は9年、弓道場は増築から6年経過している。
- 松山町駐車場は、スポーツ施設で大会等が開催される場合は、ほぼ満車状態である。

④景観特性

- 景観形成重点地区に指定されており、高さ基準が設けられている。
- 平和公園から稲佐山に向けて「平和交流軸」が形成されている。
- 西地区を東西方向に走る市道は、緑あふれる歩行空間を形成している。
- 東側のエントランス部は建築物やJR高架施設により閉塞感が感じられる。
- 西側は浦上川に面し開かれた空間を形成している。
- 市道より北側は、大規模施設が密集し、圧迫感のある空間となっている。
- 市道より南側の陸上競技場とその周辺は、緑が感じられ、憩える空間となっている。
- 陸上競技場東側のJR高架下空間が有効活用されていない。

市民ニーズ

○市政モニターアンケート調査(回答数163人)

- 西地区の利用目的は、多い順に「散歩」「憩い・休息」「松山町駐車場」。
- 西地区の問題点・課題は、多い順に「休憩できる場所が少ない」「遊べる場所が少ない」「飲食場所が少ない」「飲食・物販店がない」「駐車場の台数が少ない」、その他、「子どもの遊び」に関する意見も散見。
- 西地区に必要な機能・充実した方が良い機能として、多い順に「憩いの場」「遊び等の空間」「飲食の場」「駐車場」。
- 平和公園(東地区と西地区)の一体性や連続性について、「東地区と西地区の個別の利用を尊重する」という回答が約54%、「東地区と西地区の一体的な利用を推進」が約35%、「その他」が約22%。
- 「その他」の意見として、「平和公園(西地区)も平和公園の一部であることを知らなかった」という意見が多数あり。

平和公園（西地区）の再整備に当たっての課題

課題① 平和の継承・発信

- これまで培ってきた平和公園の趣旨を尊重しつつ、東地区との適切な機能分担のもと、未来に向け平和の尊さが感じられる**長崎市のシンボルとなる公園**であり続ける必要がある。

課題② スポーツ施設の再配置と多様なニーズへの対応

- 限られた敷地の中に従前と同じ施設を配置できないため、利用実態や代替地確保の可能性などを踏まえ、**スポーツ施設を再配置**する必要がある。
- 多様化するスポーツニーズに対応**するための環境を整える必要がある。

課題③ オープンスペースの維持・確保

- 市街地に位置する利便性が高い貴重な土地であるため、市民に身近で**日常的な憩いの空間**や**災害時等の防災拠点緊急避難場所**として、さらには、グリーンインフラの視点からも**オープンスペースや緑を維持・確保**する必要がある。

課題④ 新たな玄関口としての機能強化

- （仮称）松山ICの設置により、県北からの来訪者を迎え入れるための、新たな**玄関口としての機能を強化**する必要がある。

課題⑤ 周辺施設等との連携や調和した景観の形成

- 公園内はもとより、周辺に位置する**施設等との連携により相乗効果を生み出す空間**とする必要がある。
- 平和公園から稲佐山への軸線や東西地区を結ぶ歩行者動線を尊重しつつ、周辺市街地等と調和した**都市景観を形成**する必要がある。
- 南北幹線道路は、公園に溶け込み違和感を感じられないような設えにすることを求めていく必要がある。

課題⑥ 持続可能な施設運営

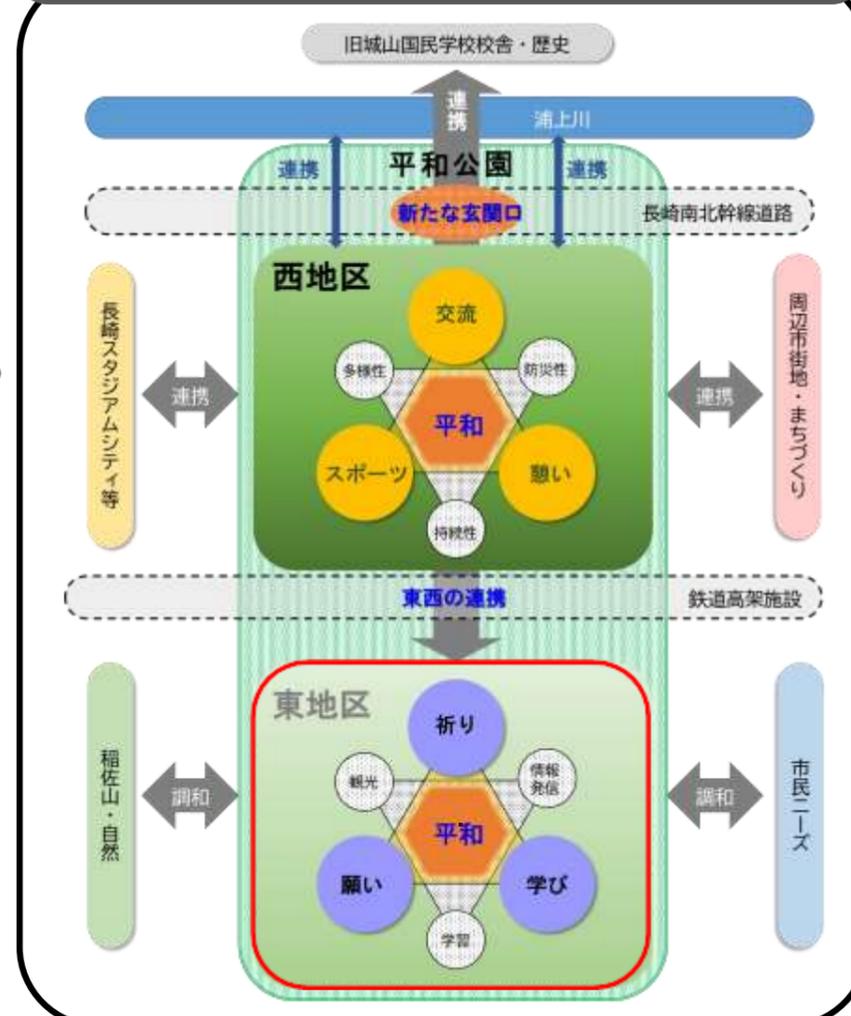
- 将来にわたり持続的に維持していくため、**官民連携手法の導入、ICTの活用**などにより、効率的で効果的な施設整備と、持続可能な管理運営を行っていく必要がある。

上位計画・関連計画

●第五次総合計画	●都市計画マスタープラン
●緑の基本計画	●立地適正化計画
●景観計画	●歴史的風致維持向上計画
●バリアフリーマスタープラン	●公共施設適正配置基準(案)
●スポーツ推進計画	●駐車場整備計画

- 都市公園としての機能向上（多様化するニーズへの対応、景観性の向上、ユニバーサルデザイン化など）
- より魅力的な空間の創出（交流機会を創出するためのスポーツの場、広場空間の確保、**緑化の推進**、浦上川との連携など）

空間形成の考え方



平和公園（西地区）の基本方針（案）

平和公園再整備基本計画（平成6年3月）

- 全体：『平和の森』—平和を願い、実践していく交流公園—**
- ①公園全体は、広々とした空間そして豊かな緑陰と、集客力のある施設を備えた、長崎市及び中央地区のシンボリックな公園とする。
 - ②東地区は、平和を祈念する公園として、その機能を強化するとともに風致に配慮した『街の緑』となる公園とする。
 - ③西地区は、スポーツ活動のみではなく、多様なレクリエーション活動や、水辺の利用に対応できる市民の「いこいの場」となる公園とする。
 - ④平和公園を中心に、周辺の公園、レクリエーション施設、そして原爆のメモリアル施設とのネットワークを図る。

西地区：『市民交流、自然交流のゾーン』

- 平和を希求する公園の未来性を利用形態を通して表現する。
- 「平和交流」を「レクリエーション」と「自然」によって展開する。

東地区：『平和を祈り、願うゾーン』

- 平和公園としてのメモリアル性をより象徴的な空間として表現する。
- 東地区内の各ゾーンの象徴機能の明確化と一体的な地区としての再編、強化を図る。

西地区の基本方針（案）

『平和を感じ、交流するゾーン』

- ①多様なニーズに応じた、平和を発信するスポーツ環境の創出
 - 長崎南北幹線道路の整備を契機として、スポーツ施設の再配置を図るとともに、多様なニーズに応じたスポーツやイベント等を通じ、平和を発信する空間を形成します。
- ②市民に身近で、平和の尊さを感じられる憩いの空間の形成
 - 市民が日常的に集い・安らげる居心地の良い空間、水や緑とふれあえる空間、安全・安心を支える防災力を備えた空間など、日々の生活の中で平和の尊さを感じられる空間を形成します。
- ③長崎の新たな玄関口としての機能強化
 - 長崎南北幹線道路の整備により設置される（仮称）松山ICからの来訪者を迎え入れる機能を強化するとともに、東地区と旧城山国民学校校舎とを結ぶ象徴的な空間を形成し、円滑な移動を確保します。
- ④連携と調和による機能的、魅力的な空間の形成
 - 周辺施設等との機能面や空間面などでの連携による公園としての機能向上や、景観的な調和により魅力的な空間を形成します。
- ⑤効率的で効果的な施設整備と管理運営
 - 官民連携手法やICTの活用などにより、効率的で効果的な施設整備と、市民参加を促しながら、将来にわたり持続可能な管理運営を行います。

平和公園(西地区)のゾーニング(案)とゾーン別整備方針(案)

全体コンセプト : 平和の森-平和を願い、実践していく交流公園-
西地区の基本方針 : 『平和を感じ、交流するゾーン』

S=1:2,500 (A3)

●Eゾーン
水辺と道路高架下を活用した多目的な空間
 ・水辺と連携した憩い空間の形成 (Bゾーンとも連携)
 ・新たなスポーツ空間の創出
 ・南端部における眺望点や親水空間の形成
 ・高架道路沿いの連続した緑化

●Dゾーン
新たな交流・賑わいを創出する空間
 ・緑陰にあふれ、市民が身近に休息や散策などを楽しむ、災害時の避難場所ともなり得る空間の形成
 ・道路計画に支障をきたすスポーツ施設の代替地
 ・官民連携による賑わいを創出する来園者への便利施設 (飲食・情報発信機能等) の導入検討
 →増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処理機能 (地下駐車場) の導入検討

●Cゾーン
新たなつながりを象徴するエントランス空間
 ・ゆとりある歩行空間と緑化 (並木・花壇等) による象徴的な通りの形成
 ・周辺ゾーンへのシームレスな空間の形成
 ・官民連携による賑わいを創出する来園者への便利施設 (飲食・情報発信機能等) の導入検討
 ・平和発信機能の導入検討
 ・増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処理機能の確保検討

●Bゾーン
道路高架下を活用した多目的な空間
 ・時代のニーズに対応する多目的な空間として活用 (スポーツ、小広場、遊戯広場、駐車場、駐輪場など)
 ・浦上川沿いの親水護岸を活かし、水辺と連携した憩い空間の形成 (Eゾーンとも連携)
 ・高架道路を取り囲むような緑量ある緑地帯の形成

●Fゾーン
緑に囲まれたスポーツ環境を創出する空間
 ・道路計画に支障をきたすスポーツ施設の代替地
 ・下の川沿いの連続した緑化

●Gゾーン
既存のスポーツ施設を活用する空間
 ・道路計画に支障をきたさない施設は存置活用
 ・周辺ゾーンとの連携・調和

●Hゾーン
鉄道高架下を活用した多機能な空間
 ・公園機能のバックヤード (管理用駐車場や倉庫など) や災害時の備蓄倉庫など、多機能な空間として活用
 ・鉄道高架施設沿いの連続した緑化

●Iゾーン
東地区と西地区とをつなぐゲート空間
 ・東西地区をつなぐ安全・快適な歩行者動線や交差点隅切り部におけるたまり空間の確保検討
 ・増加が見込まれる自動車交通に対応した交通処理機能の確保検討

●Aゾーン
既存の大規模スポーツ施設等を活用する空間
 ・既存の大規模スポーツ施設、ペDESTリアンデッキ、地下駐車場は存置活用
 ・周辺ゾーンとの連携・調和

●各ゾーンにおける基本方針(案)の対応表	A	B	C	D	E	F	G	H	I
① 多様なニーズに応じた、平和を発信するスポーツ環境の創出	◎	○	-	◎	○	◎	◎	-	-
② 市民に身近で、平和の尊さを感じられる憩いの空間の形成	-	◎	○	◎	◎	○	-	-	-
③ 長崎の新たな玄関口としての機能強化	-	-	◎	◎	-	-	-	-	◎
④ 連携と調和による機能的、魅力的な空間の形成	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤ 効率的で効果的な施設整備と管理運営	○	○	○	○	○	○	○	○	○